



ふじ美が原

富士見中学校

特集：入学式

人間性・知性・感性を磨き たくましい心をつくらう

百十九名の新入生を迎え、全校生徒三百七十七名で平成三十年度が始まりました。今年度のスタートでもあった入学式、校長と新入生代表生徒の話掲載します。



式 辞

厳しかった冬の寒さも和らぎ、春のエネルギーを感じる時期となりました。

本日、この佳き日に、富士見町教育委員会協坂隆夫教育長様をはじめ、多くの御来賓の皆様方のご臨席を賜り、開校以来九回目となります富士見中学校の入学式を挙行できますこと、心より感謝申し上げます。

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

皆さんは、いよいよ富士見中生となり

ます。心の準備はできていますか。富士見中は、勉強を頑張りますし、部活動も強く、そして何より心のやさしい生徒が集う一流の学校です。皆さんが、この一流の学校の真の生徒となってもらうために、今日は富士見中生としての心得と、校長としての願いについてお話しします。最初に、富士見中生としての心得についてお話しします。富士見中には、皆さんの先輩方が築き上げてきた宝があります。代表的な三つを紹介します。

一つめは、挨拶です。学校で朝や帰りの挨拶をすることはもちろん、学校生活の間も、「こんにちは」の挨拶を交わします。登下校時にも、地域の方に「おはようございます」等の挨拶をします。挨拶は、富士見中学校の宝です。

二つめは清掃です。富士見中では、「熱中清掃」という目標を掲げ、熱中して、無言で、時間いっぱい校舎を磨き、汚れたところを見つけてきれいにする気づき清掃を行っています。小学校時代、無言で、汚れたところを自ら探して、きれいに清掃ができていた、という人、手を挙げてください。手を挙げた人は、さらによりよい清掃に高めましょう。挙げられなかった人は、自分の心をも磨く清掃の姿を、先輩から学んでください。

最後の三つ目は、合唱です。富士見中学校は、歌を大切にしています。十一月

下旬に行われる合唱祭は、各クラスが、学年が、そして全校で、歌声を披露し合っています。そのレベルは大変高く、県下に知れ渡っています。歌をみんなで歌う合唱について、好きだという人は、手を挙げてください。手を挙げた人も、挙げなかった人も、みんなでハーモニーを合わせた心の感動を、是非味わってもらいたいと思います。

次に、校長としての願いについて、お話しします。富士見中学校の教育理念は、「知的好奇心を高め、自らの夢に挑戦することができる生徒」です。最初の「知的好奇心を高め」とは、学校生活の中の授業はもちろん、生徒会や部活動などのすべてにおいて、「どうしてだろう」「不思議だ」「やってみよう」「よし、やろう」という思いや願いをもつて、取り組んでいく力をつけましょう、ということなのです。

「自らの夢に挑戦することが出来る生徒」についてですが、また手を挙げてもらいますから聞いてください。大人になった自分を思い描き、将来の夢を明確にもっているという人は、手を挙げてください。中学校は、将来に向けて、自分の夢を明確にしたり、その夢の実現に向けてどうすればよいかを明らかにしたりするところです。夢がある人は、実現に向けて、どんな中学校生活を送ればよいかを考



ふじ美が原

富士見中学校

特集：始業式

これから先の運命を、よりよくするための心を、日々創っていこう

一学期の出発である始業式では、二年生、三年生の決意発表、校長先生のお話がありました。「目標」ということについて、じっくり考える始業式となりました。



〈校長講話に先立って行われた生徒の決意発表に触れたのち〉

ただいまは、2年生のHさんが、1年生の二本となることや、生徒会活動、勉強を充実させることについて発表してくださいました。

3年生のMさんは、後輩に教えていく立場として、生徒会活動、部活動を充実させ、後輩を引っ張る姿勢を示してくださいました。

皆さんも、新年度に当たり、どのような一年にするのか、思いを新たにしていることと思います。

今日は、皆さんに、自分自身の今とこれからについて振り返ってもらおう話をします。

この写真は誰か分かりますか？ 松井秀喜選手です。

松井選手は、石川県の星稜高校出身で、読売巨人軍に入団し、十年間でホームラン王を三回獲得するなど大活躍をしました。その後アメリカへ渡り、大リーグのニューヨーク・ヤンキース等でも活躍しました。2009年のアメリカ大リーグの頂点を決める大きな大会、ワールドシリーズ最終戦で、先制2ランホームランを打つなど、1試合6打点の大活躍をし、ニューヨーク・ヤンキースを世界一に導きました。そのシリーズでは、13打数8安打、3本塁打、8打点という記録を残し、MVPに選ばれました。これは、当然日本人として初めてのことで、アメリカ大リーグのワールドシリーズのMVPを日本人が獲得するなんて、私が小学生の頃を振り返ると、夢にも思わなかつた凄いことです。2013年には巨人軍の長嶋茂雄名誉監督と一緒に国民栄誉賞も授与されています。

そんな松井選手の高校時代、星稜高校野球部の監督を務めていたのは、山下智茂監督でした。山下監督は、野球部の部員に、次の言葉を示して、野球選手としてのみならず、人間としての成長を求めています。その言葉がこれです。

- 心が変われば 行動が変わる
- 行動が変われば 習慣が変わる
- 習慣が変われば 人格が変わる
- 人格が変われば 運命が変わる

松井選手は、この言葉を胸に秘め、日々の練習に望み、超一流の野球選手になりました。

さて、これらの言葉は、何を伝えたいのでしょうか。4つの文がありますが、すべて

てを通して、どんなことを伝えたいのか、一人一人考えてみてください。時間を1分取ります。(1分後)

それぞれに、自分なりの考えをもたせようか。ではこれから、私の考えをお話しします。自分の考えと比べながら聞いてください。

心が変われば、行動が変わります。どのように心が変わるかによつて、色々な行動の現れ方があると思いますが、「よし、やってみよう」とか「しっかり考えよう」、あるいは「もっと相手の気持ちを思いやろう」などの心の変化によつて、その人の行動は変わります。

行動が変わった日を何日も何日も続けていけば、その行動が当たり前となり、習慣となります。

その習慣を続けられれば、その習慣を続けてきた心とその人自身の本当の心となり、その人の新しい人格を創っていきます。

人格を変えることができれば、その人の運命、つまり人生を変えることができるということになります。

この文章を読み解けば、このように理解できます。

さて、ここからさらに考えます。この4つの文章を、時間の流れで考えていきます。「心を変えて行動を変える」とは、その気になれば、すぐにできます。やろうと思えば、行動に移すことはすぐにできます。

行動を変えてそれを習慣化するには、時間がかかります。「三日坊主」という言葉がありますが、三日や一週間では、習慣を変えたとは言えません。少なくとも、最低1ヶ月はかかるでしょう。

このように習慣を変えることで、人格が変わると言っています。人格が変わったのは、習慣がずっと続いている状況ができた強い心があつたからこそだと思います。そして、人格が変われば、運命が変わると言っています。

皆さんは、これから長い人生が待っています。どんな人生を送るのでしょうか。どんな運命が待っているのでしょうか。

先ほど、時間の流れで考えerると言いましたが、運命を変えるということは、とても長い時間の流れを示しています。

さて、今日の話の一番の核心に迫ります。結局、皆さんの人生を変える、つまり運命を変える一番最初のスタートは何だと言っているのでしょうか。考えてみてください。

それは、「心」だと言っています。皆さんの日常の行動から始まり、人生に至るまで、すべてを決めていくのは、皆さん自身の心であると言っているのです。つまり、すべては、皆さんの心に委ねられています。

さて、新しい年度を迎えました。皆さんはそれぞれに、どんな目標をもっていますか。そして、その目標の達成に向けた心の準備はできていますか。富士見中の先生方は、全員、皆さんが将来社会へ出て活躍し、幸せな人生を歩んでほしいと願っています。そのための力をつける学校にしようと思つています。

私も、これから先の運命をよりよくするための心を、日々創つていこうと思つています。皆さんもどのような心を変えていくのか、それぞれに考えて、新年度の目標を立ててください。

二年生の抱負 お手本、自覚、勉強

二年生代表 H・M さん

二年生の目標は、三つあります。

一つ目、一年生のお手本になることです。去年の自分は、一年生で、一・二年生の先輩の背中を見て、その背中から多くのことを学ぶことができました。特に感じたことは、目の前のことに集中して、清掃、生徒会を行っている先輩方の姿勢です。「この姿が先輩な人だ」と気づかされました。当たり前のことを当たり前に行っていた先輩たちの姿も、今度は自分たちが見られる立場になります。一年生のお手本になれるように、今の生活を見直し、失敗をおそれずに、堂々と行動し、何事にも意識を高く持ちいいお手本になれるようにします。

二つ目は、生徒会活動で自覚を持つことです。去年、自分は保健委員でした。当番活動は当たり前でできたけれど、当番活動以外の他の人への気配りや風邪がはやりやすい時期の、教室、廊下の換気など、自分から積極的にできませんでした。保健委員が積極的に動かなければ、他の人も動いてくれないと思います。換気などの仕事に対して積極的に、動けなかったのは、保健委員の一員として、自覚・責任が足りなかったと思います。

今年も、どの委員会に所属したとしても、二年生としての自覚・責任をもって、どの委員会でも、人に気配りができるように、自ら積極的に動きたいです。そのため、学校生活の基本的なことから見直し、達成できるように頑張ります。

三つ目は、勉強です。一年生の時は、

あまり良くない成績のまま、一年間が終わつてしまいました。良くない成績ができたのは、勉強に対する意識と、努力が足りなかったからだと思います。自分の成績を改善するために、どうすれば良いのか考えました。それは、毎日集中して机に向かい、宿題の他に自主学習を多く、積極的に取り組むことです。自主学習では、勉強の質、量をよりよいものにします。自分は、長い時間集中して、勉強することができません。これからはどんな勉強が難しくなっていくか。授業についていけるようにするために、日々の予習や復習を大切に、自分の力を伸ばしたいです。短い時間でもしっかりと集中して、机に向かい、日々の努力を惜しまず勉強をやっていきます。

今発表した三つ、お手本、自覚、勉強を絶対に忘れずに、三つの目標を必ず克服していきます。そして、二年生として、やるべき事を忘れずに、三つの目標を達成するために、一日一日を大切に、努力を惜しまず一年間頑張っていきます。

三年生の抱負 実践して、成長する

自分の姿を見せる

三年生代表 M・H さん

僕は、二年生の時に「後輩に教えることができる自分づくり」をテーマにして生活してきました。

例えば、先輩が僕たち後輩に教えてくれる姿をよく見たり、生徒会行事に積極的に参加したりしてきました。その結果、その結果それまであまり出さなかった。ペットボトルの蓋を出すなどの積極性

が身につけてきたと思います。教えるという点では、積極性があまりでてきてないと思います。なので今年も、「後輩に伝えるように教える」というテーマで最高学年を生活していきたいと思いました。その中でも特に「後輩たちに伝えたい」と思うことが二つあります。

一つ目は、生徒会活動についてです。小学校では児童会という名前でしたが、中学校では生徒会という名前です。これはただ名前が変わっただけではなく、「児童」は先生や役員の指示を待つことが多いですが、「生徒」は、指示をされなくても動くというように、活動の質も大きく変わってくると思います。指示される前に自分たちで判断し、行動していくという姿を後輩たちに率先して見せて伝え、自分自身もさらに成長していきたいと思つています。

二つ目は、部活動についてです。僕は男子ソフトテニス部に所属していますが、顧問の茅野先生から「試合と練習を区別するな」とよく言われます。「練習だから」といつて手を抜いたり、「試合だから」と言つて頑張ろうとしたりする自分が見えます。なので、「練習は試合のように、試合は練習のように」ということを意識して取り組む姿を後輩に見せて、そのことを伝えていきたいと思つています。

また、部活以外でも練習だからと手を抜いたり、本番だから頑張ろうとしたりするところがあるので、学習や学校生活の中で、練習と本番を区別しない自分づくりをして、「言葉で後輩立ちに教えること」と同時に「それを実践して、成長する自分の姿を見せること」で、後輩たちに伝えていきたいと思つています。